キャリア関連科目の介入効果

—学生の在籍率に着目した検討—

○三保紀裕

(島根大学キャリアセンター)

キーワード：キャリア選択自己効力感, 学習観, 在籍率

Intervention effects in the classes of career education: Focusing students' retention rate

Norihiro MIHO

(Career Center, Shimane University)

Key Words: Career choice self-efficacy, Conceptions of learning, Retention rate

【問題と目的】

平成 23 年 4 月に実施された大学設置基準の改正により、キャリアガイダンスが義務化された。すなわち、大学は単に専門知識や役割試行の場を提供するだけではなく、キャリア発達に対する集团的介入・支援を行う場としても機能することが期待されるようになった(三保・清水, 2012)。これに伴い、キャリア教育を推進する動きが活発化している。

教育プログラムの介入効果の測定では、pre-post 形式で測定を行い、得点の増減によって効果の有無、定着度を判断するのが一般的である(例えば、清水, 2011)。pre-post の測定から効果を評価するには、両方の測定機会に参加していることが前提となるため、pre のみで脱落した者は分析対象から除外せざるを得ない。大学適応においては、学生の在籍率(retention)が重要との指摘(Tinto, 1993)もあるため、教育内容等の改善を考える上では、pre-post の変化に加え、pre のみで脱落した者との比較検討も有効であると思われる。以上の問題意識から、本研究では、大学で実施されているキャリア関連科目を事例として、①介入効果の測定、②在籍率からみた学生の意識の違い、これら 2 点について検討を行うことにしたい。

【方法】

調査方法 キャリア関連科目(教養科目)を受講した大学生 80 名(男性 52 名、女性 28 名)。講義の第 2 回(pre)と第 15 回(post)に、それぞれ同じ内容の調査を実施した。pre-post 双方の参加者は 59 名(男性 35 名、女性 24 名)、pre のみの参加者は 21 名(男性 17 名、女性 4 名)であった。平均年齢は 19.45 歳($SD=1.20$)、所属学部は 4 学部にわたっていた。

対象科目の詳細 キャリア選択に関わる基本的知識を、社会的視点から学ぶことを目的とした科目である。講義に加え、グループ単位での学習形態が盛り込まれている。

測定変数 キャリア選択自己効力感尺度(花井, 2008)、大学での学習観尺度短縮版(三保, 2010)を使用した。

【結果と考察】

学習観と自己効力感の下位尺度について、それぞれ pre-post で対応のある t 検定を行った(表 1)。自己効力感では、「意思決定の主体性度」を除く 4 尺度において、有意な得点の上昇

がみられた。これに対し、学習観では 4 尺度全てにおいて、有意な得点

の変化がみられなかった。自己効力感における有意な得点の上昇は、授業科目を通じて様々な知識を得たことにより、キャリア選択について、より適切な判断ができるようになった結果の表われとみることができるのではないだろうか。

在籍率に着目し、pre

のみの参加者と pre-post

双方の参加者について、

pre 時点における平均値

比較を行った(表 2)。

自己効力感では有意差

がみられなかったが、学

習観では「自己成長」「受

身」で有意差がみられた。これらの点から、pre のみで脱落し

た理由には、①対象科目、あるいは大学での学びそのものに対する魅力の無さ、②対象科目における負担感、③「学びの転換」が不十分な状態、以上 3 点を考えることができそうである。これらの点から授業科目における改善策を考えると、魅力ある授業内容の構成に加え、協同学習などの活用によって脱落者を減らすための工夫、授業デザインの修正が必要であると思われる。対象科目から脱落した理由が授業科目そのものに起因しない場合は、一つの講義科目で解決できる問題を越えている可能性がある。このような場合には、全学的な支援体制が必要になるだろう。

本研究では在籍率にも着目することにより、介入効果の測定に加え、その改善に資する情報を得ることができた。介入効果の測定のみならず、プログラムの改善を考えていくためには、在籍率にも着目した検討が必要ではないだろうか。

表1 学習観と自己効力感の平均値と安定性係数

		pre	post	差分	t 値(自由度)	安定性係数
学習観	主体的学習	3.31	3.41	0.11	1.77(58) +	0.62 ***
	自己成長	3.21	3.23	0.02	0.24(58)	0.47 ***
	単位取得	3.13	3.03	-0.10	1.62(58)	0.65 ***
	受身	2.29	2.27	-0.01	0.17(58)	0.58 ***
自己効力感	自己評価	2.80	3.01	0.22	3.09(58) ***	0.52 ***
	目標選択	2.58	2.84	0.25	2.96(58) ***	0.60 ***
	計画立案	2.30	2.59	0.28	3.35(58) ***	0.45 ***
	情報収集	2.75	3.01	0.26	3.61(58) ***	0.51 ***
	意思決定	3.07	3.20	0.13	1.71(58) +	0.48 ***

注: *** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

表2 在籍率による平均値比較(t 検定)

		preのみ	pre-post	t 値(自由度)
学習観	主体的学習	3.11	3.31	1.35(78)
	自己成長	2.85	3.21	2.20(78) *
	単位取得	3.30	3.13	1.17(78)
	受身	2.69	2.29	2.85(78) *
自己効力感	自己評価	2.90	2.80	0.69(78)
	目標選択	2.62	2.58	0.19(78)
	計画立案	2.26	2.30	0.28(78)
	情報収集	2.87	2.75	0.81(78)
	意思決定	3.07	3.07	0.01(78)

注: * $p<.05$